



社会福祉法人
ミッドナイトミッションのぞみ会



ホーム
ページ
QRコード



※
QRコード

2024/8/1 No.96

発行者：社会福祉法人 ミッドナイトミッションのぞみ会
本 部：〒293-0023 千葉県富津市川名1436番地

「あの男を呼んで来なさい」 ―インクルーシブな社会づくり―



副理事長 木下 勝世

「インクルーシブな社会」は、誰に対しても「オマエはいらない」と言うことをせず、誰一人「オマエはいらない」と言われる人がいない社会です。2000年前、イエス様はエリコの町でインクルーシブな町づくりをなさいました。こんな出来事です。エルサレム近郊にあるエリコの町に物乞いをして暮らす盲人がいました。富裕な人々が住み、美しい街並みが自慢のエリコでしたから、道端で物乞いをする盲人は町の人々から邪魔者扱いされていたことでしょう。そんなある日、この町をイエス様を通り過ぎる方角に向かって、大声で「私を憐れんでください」と叫びました。町の人たちは彼を黙らせようとしてました。でも彼はますます大声で叫び続けました。

するとイエス様が立ち止まり、町の人々に「あの男を呼んで来なさい」と言われました。そこで人々は盲人のところに行き、言いまし

た。「安心しなさい、立ちなさい、お呼びだ」これを聞いた盲人は躍り上がって喜び、イエス様のところに来ました。イエス様は盲人の目を見えるようにしてくださいました。（マルコによる福音書十章四六節）

イエス様はこの時ご自分で直接盲人の所に行くことが出来たはずですが、その方が話がいでしょう。でもそうはなさらず、町の人たちに「あの男を呼んで来なさい」と命じられました。町の人たちが盲人の傍に行き、語った言葉が印象的です。「安心しなさい、立ちなさい、お呼びだ」それは福音のメッセージそのものだったのです。

この言葉を盲人に伝えに行ったとき、町の人たちは座っている盲人の高さまで腰をかかめて言ったのではないのでしょうか。また、盲人の手を引いてイエス様のところに連れて行ってあげたかもしれません。私はそんな光景を想像します。町の人たちは変えられませんでした。邪魔者扱いしてきたこの盲人の傍に行き、喜ばしい言葉をかけ、手を引いて助ける人に変えられたのです。イエス様の一言がエリコの町の人々を変え、町をインクルーシブな町に変えたのです。

福祉は「あの男を呼んで来なさい」という言葉に促され、それに従う働きです。それは

良い知らせを携えて行き、伝える働きです。その働きは相手の傍らに赴き、その人の高さにまで腰をかがめ、「神さまがあなたを呼んでくださっている」と言い、その人のために手を貸して必要な支援をすることです。エリコの町の人々がしたように、です。

神さまは願っておられるに違いありません、この世界があの日のエリコの町の人たちが語ったようにお互いに伝え合い、エリコの町の人たちがしたように行動する世界になることを。福祉の場で働く一人ひとりが神さまのこの願いを実現する担い手です。イエス様がエリコの町の人たちを変えてくださったように、神さまが私たちをそのような担い手に変えてくださるのです。

東京望みの門 自立援助ホーム マナの家 人は自分の意志で変化して行ける

生活指導員 尾家 美穂

新緑の季節を迎えた5月中旬の事でした。今年のGWは寮生たちの休みが合わず、どこにも行けなかったので、皆の希望で外食をしてボーリングに行くことになりました。

新入寮生のM子は初体験だというのに、付

添いの職員二人は思い出せないほど遠い昔の経験しかない頼りなさ。そんな中、日頃は口数の少ないY子が、人が変わった様に雄弁になり皆を誘導してくれます。待望のレストランに着く前にスマホで自分のメニューは決め、入店すると全員のオーダーを手際よく注文してくれます。皆、美味しかったと大満足で店を後に。商店街を抜けボーリング場へ向かう途中、Y子がM子に「私がバイトしているアクセサリー店の支店があるから見て行かない？」と誘い、店内を見学する。M子は転校手続きをして、やっと高校に通い始めたばかり。

バイトも未経験で求職中でした。寮生活、学校、バイト探しと初めての事続きの緊張感で表情の硬いM子への気遣いを見せるY子に、こんな一面もあるのかと驚きました。ボーリング場は館内にカフェスタンドも設備。各レーンの上にはモニターが設置され、スコアボードが大きく映し出されている。タッチパネルでメンバーの名前を入力すると、自動的にスコアが表示されるようになっていました。スコア用紙に鉛筆で黒塗りしていた時代しか知らない職員には、隔世の感があり、Y子にすべて任せました。館内に流れるポップな音楽にのせられゲームが進み、寮生たちが

3ゲーム目に入った頃、突然照明が暗くなり、【次の一投で一番多くピンを倒した方に、賞品が贈られます。】とアナ

ウンスが流れ、いきなりイベントが始まりました。各レーンが投げ終えた後、Y子が優勝者になり、拍手の中ブリクラでの撮影権を獲得。寮生たちは、笑顔で記念写真を撮り、帰路につきました。

入寮当初、ガードを固くして職員たちの話しかけにも頷くか首を横に振るだけで応えていたY子が、こんなにも積極的な一面を持っていたのも意外な発見でした。一年前、不安を抱えながら入寮してきた自分の姿をM子に重ね合わせていたのかもしれない。

マザーテレサは【愛のことば】の中で

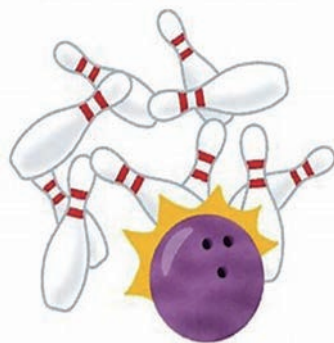
多くの人は病んでいます。

自分がまったく愛されていない

関心を持ってもらえない

いなくてもいい人間なのだと…

人間にとって



いちばんひどい病気は

誰から必要とされていないと

感じることです。

と言っています。

寮生たちには、支え合える姉妹のような絆が生まれてくれる事を祈っています。

女性自立支援施設 望みの門学園

新たな女性支援への一歩

生活支援員 志保沢 沙也加

令和6年4月1日、女性支援新法「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」が施行されました。新法施行に伴い、望みの門学園も婦人保護施設から女性自立支援施設へ職員も指導員から支援員へと名称変更しました。婦人保護事業は根拠法である売春防止法の、売春を行うおそれのある女子の「保護・更生」を図る事業として始まりました。しかし現代女性を取り巻く環境や多様な課題に対応するため新法は女性の福祉・人権の尊重・男女平等といった視点を明確に規定し売春防止法からの脱却、新たな女性支援への一歩を踏み出しました。

学園でも長年保護更生という名のもと施設

が利用者を管理するという状態が続ききました。学園で暮らしている利用者は施設が決めた事を守り、ルールに沿って生活をする。職員は利用者に対し指導をする。平日に化粧はしてはいけない、決められた消灯時間には電気を消し休むこと等様々な暮らしの制約がありました。

そのような中、新法施行を契機として学園生活の見直しを図ることとなりました。利用者の望む安心して生活できる環境とはどのようなものなのか模索しながら、利用者にアンケートや話し合う場を設け意見を募りました。

生活面での改善希望は多く挙がるかと思われましたが、今のままでいい、変化を望まない



という意見が想定より多く目立ちました。施設生活が長くなることで、要望を出しにくくなってしまったのか、慣れた生活で変える必要がないと感じたのかはわかりませんが、現代では当たり前になっている事を施設にいるからという理由だけで奪われないように、職員側からも提案し夜間の消灯時間の廃止、朝会の利用者点呼の廃止、全面的に禁止されていた携帯電話所有について等の見直しを行いました。

正直なところ、まだまだ施設特有の生活の制約は残っていますが、利用者一人一人が学園で生活するという事に安心を覚えられように、自分らしく生活することができるようこれから試行錯誤しながら見直しを続けていきたいと思っています。当事者を真ん中にした支援を目指して。

養護老人ホーム 望みの門楽生園

生活相談員としてさまよった8年…

副施設長 長嶋 由紀子

望みの門楽生園の生活相談員として8年目を迎えようとしています。8年前は養護老人ホームとはどんな施設？養護の生活相談員の

業務は何をしたらいいのか？養護施設の対象利用者様は65歳以上の経済的・身体的・環境上の理由の方が措置対象者基準であるが、全介助の利用者様もいらっしゃる養護老人ホームの生活相談員が私にできるのか不安でした。そんな不安からのスタートで楽生園に異動し、初めて感じたことは環境のせいなのかどうかとなく暗く利用者様の笑顔も少ないような印象を受けました。

まず私にできることは何か、何からやればいいのかと考え環境整備である施設内の掃除、整理整頓をおこなうことで暗い施設の印象を明るくし、笑顔で生活が送れるように冗談交えてのコミュニケーション、相談をおこ

ないながら信用・信頼にこだわり関わらせていただくことから始めてみました。

楽生園の利用者様は私が今まで生きてきた中では、中々経験しないようなこと



を抱えられている利用者様が多く、支援方法も様々で正解が解らない中での相談業務の難しさ、解決方法の引き出しがない頭を抱える毎日でした。

頭を抱えて8年目：現在入所されている利用者様やご家族、時には弁護士の方とも関わらせていただく中で沢山学ばせていただき少しずつではありますが引き出しも増えてきたように感じています。

しかし、引き出しは増えてきたものの措置施設の現状は厳しい状況にあります。措置から契約へと「措置控え」傾向であり利用者を確保していくことも厳しい状況となっておりまっています。

現在入所されている利用者様についても高齢化に伴う重介護度対応、認知症対応、障害や精神疾患、債務整理、家族からの虐待等、多様なニーズに対応していくためには、より多くのノウハウも身につけて行かなくてはならない現状です。

問題・課題はたくさんですが、私自身大切にしたいことは利用者様にとって住みやすく安心してその人らしく生活できる環境を提供できるように、今後も寄り添う支援を心掛けていきたいと思います。

特別養護老人ホーム 望みの門紫苑荘

紫苑荘に勤めて2年目の夏

介護員 吉田 明美

紫苑荘で働くことになって今年の3月で1年が過ぎ、2年目の夏をむかえました。

もともと人と接する事が好きで、人の役に立ちたいという思いがあり、始めは看護職を目指していましたが、結婚・妊娠と重なり看護は諦めて、介護職に就こうと決心しました。紫苑荘に来る前はデイスービスの会社に1年半程勤めていましたが、そのころから紫苑荘に勤めている友人から何度も一緒に働こうとお誘いの言葉を頂きましたが、なかなかタイミングがあわずいい返事が出来ませんでした。子供が中学生になった時に中学での野球ではなく、「シニアで硬式の野球をやりたい」と言ってきたので私も介護員としてステップアップしてどこまで出来るか自分の力を試してみたいと思いのぞみ会に就職しました。初めは何をしたらいいのか右も左も分からない状態でした。同じことを何度も話される利用者様の対応や自力でできることが少なくなった利用者様の介護に戸惑いがありました。丁寧に何度も先輩職員に教えてもらいま



したが、思うように行動出来ず、何度も怒られたり出来てない事への指摘も沢山ありました。その度に何度かめげそうになり弱音を吐く自分の姿もありましたが、そんな時「吉田さんは親しみやすいし、頑張ってるよ。大丈夫だよ。」と、言ってくれた利用者様の言葉は今でも私自身の励みになっています。

なかなかうまくいかなかった排泄交換や食事介助、移乗介助も先輩職員にやり方やコツを聞いて自分なりのやり方が出来るようになりました、介護技術や知識がどんどん高まってきました。二年目になり、利用者様のちょっとした変化や問題の解決策など自分なりの答えが出せるようになり、委員会や会議で自分の意見を発言できるようになりました。居室の担当・行事の企画・オムツの発注業務など出来る業務が増え責任感が増してきています。

仕事量は増えたけど、何を優先して動いたら良いかの判断も出来るようになり1年目より気持ちにも少し余裕を持って仕事出来るようになりました。

5月22日に利用者様と富津公園に行きました。現地でアイスを食べながら外の景色を見たりアクセサリーをご覧になったりされ、久々の外出に普段とは違うとても楽しそうな表情の利用者様をみると笑顔がこぼれていました。笑顔を見たり、利用者様から「ありがとう」と言われると、今の仕事をやっていてほんとによかったなと、これからも笑顔を決やさないように来年も同じ気持ちで介護をしていけたらいいなと思っています。

新しい機器とともに…

特別養護老人ホーム 望みの門富士見の里

栄養士 平野 佳奈美

大暑と言われるとおりの猛暑となりました。皆様、お身体お変わりなくお過ごしでしょうか。私のがぞみ会に入職して今年で7年目を迎えました。新卒で入り、常勤職員として働くということが初めて、右も左も解らない。そんな状態の私に先輩方が様々なこと

を教えてください。ださり、時に支えてくださったことを覚えて

います。

入職して7年目、富士見の里に異動して2年目の今年、富士見の里の厨房機器の入れ



替え工事がありました。食器洗浄機、食器消毒保管庫、プラスチック&ショックフリーザの計3台です。プラスチック&ショックフリーザは出来上がったばかりの料理を0℃前後まで急速に冷却し、マイナス20℃前後まで急速冷凍・急速凍結することが可能な急速冷凍機です。衛生的に冷却することが叶うため、従来では難しかった、朝食で提供する煮物の前日調理や、仕込みなどが可能になります。

また、急速冷凍機能を使い冷凍した食品は最大8週間保存可能となるため、東日本大震

災や房総台風では、作り置きを急速冷凍し、保管しておくことでローリングストックでき、実際提供した。という報告も上がっています。

房総台風から今年で6年が過ぎ、台風の時期が近づいてきました。当施設でも急速冷凍機能を使用したローリングストックの活用その他、機器の特性を生かした、衛生的で利用者様へ安心安全に家庭的な料理を提供できるようさらに精進していきたいと思います。

老人デイサービス事業 望みの門デイサービスセンター

望みの門デイサービスのありかた

生活相談員 氏川 聡

望みの門デイサービスセンターが、望みの門本館の竣工に伴い、本館1階に他在宅系事業所とともに移転して、今年の9月で3年となります。現在1日平均約30名の利用者様がデイサービスをご利用されています。

望みの門デイサービスセンターは、明るく開放感があり、利用者様がのびのびくつろげるフロアスペース、入浴設備も一般浴以外に身体機能低下など自宅での入浴が困難な利用者様でも安心して入浴できる機械浴も設置さ

れており、素晴らしい環境が整っていると感じています。

「いつもでも今の生活を続けていきたい」誰もがそう願っていると思います。

す。そのためには、心も体も健やかでなくてはなりません。望みの門デイサービスセンターでは「自宅でいつまでも元気に過ごすことができる」をテーマに、利用者様の身体機能維持、向上を目的とした集団体操や個別機能訓練などのリハビリに重きを置くと共に、利用者様の在宅での生活を考え、利用者様のできるこ



とは利用者様にしていただく、「自立支援」の視点を重視したケアを心がけています。

レクリエーション活動では壁絵作成などの創作活動、テーブルホッケー、カラオケや季節感のある行事の企画など、デイサービスで楽しい時間を過ごして頂けるよう行っておりますが、利用者様の趣味、嗜好は様々です。今後、利用者様が個別で行うレクリエーションプログラムのレパトリーを増やすなど充実を図り、よりレクリエーション活動を楽しんで頂きたいと考えております。

望みの門の理念でもある「地域に根ざし信頼される事業所」として、利用者様、ご家族様から「望みの門デイサービスを利用して良かった」と言って頂けるデイサービスであるよう、今後もサービスの向上に努めてまいりたいと思います。

富津市富津地区地域包括支援センター

充実した毎日



看護員 堀内 裕美子

包括支援センターに配属になって一年余り、ここでは、高齢者やその家族・関係者からの相談を受け、必要な機関につなげたり、



介護予防のケアマネジメントをしたり、また認知症への理解を広めるための普及活動を行ったり、看護師としては市と連携して体操教室の立ち上げから運営の支援などを行っている。ひとりで対応できることも増えたが、まだ独り立ちできていないことも多く、学びの毎日だ。相談者の困りごとが解決したり、笑顔が見られたり、元気になっていく姿を見ると、やりがいのある仕事だと感じる。

ワークライフハーモニーという言葉がある。生活が幸せであれば仕事にも大きなエネルギーを注げ、仕事が充実すれば生活にもポ

ジティブなエネルギーを注げる、仕事と生活を融合し最適な状態を目指すというものだ。今、私はどちらも充実し、双方によい影響を与えていると感じている。そのライフの一部、趣味の畑について触れる。

私は仕事の行き帰りに2時間、休日のほとんどの時間を畑で過ごしている。この畑を始めたのは4年前、市役所より草刈りの指導を受けたのがきっかけだ。荒れ放題だったところを半年かけて草を刈り、母と一緒に畑を始めたのだ。

畑の楽しみは、自分で作った安全な野菜を口でできること、高齢の母と一緒に作業をし、お弁当を食べながらお喋りして時間を共有できること、採った野菜を知人やご近所にお裾分けしたり、様々な人を野菜の収穫に招いて交流をもてることなどがある。また、畑にいと近所の高齢者に話しかけられることもあり触れ合いの場にもなっている。

今、畑には300本を超えるオクラが育っている。秋にかけ2mほどに伸び、毎朝100本も収穫できるようになる。以前学園に在籍していたこともあって、昨年と一昨年は学園生をオクラ狩りに招待した。今後は学園以外の方にも楽しんでもらえたらと考えている。ご興味のある方、ぜひご一報を！

就労継続支援事業 望みの門新生舎

色とりどりを大切に、25年目の新生舎

施設長 渡邊 宏子

前任者から引き継いだ課題と法改正と共に始まった慌ただしい年度初めでしたが、毎日元気に出勤される利用者様の姿が、変わらぬ日常として安心を与えて下さっています。

慣れない業務の多さに不安もある中でしたが、新しいことにチャレンジしようと頑張っている利用者様の意欲的な姿が「負けていけないぞ!」という気持ちにさせて下さり、何とか進められているように思います。

私個人、長年福祉に携わらせて頂いている者として、時代と共に変化する福祉のあり方において、工賃を多く支払える事業所が評価される至上主義に向かう現実と、大切にしたい「思い」の狭間に悩まされる毎日で、今後の就労支援事業には多くの課題があると感じています。

実はその「思い」を具現化するかのよう、現在新生舎の売れ筋商品として「ほんの気持ち」と銘打った詰め合わせクッキーがあります。クッキー作りは共同作業や曖昧な作業を苦手とする自閉的傾向のある利用者様には分か

り易い作業工程と言えます。生地の分割・成型・並べる・焼き上がりにジャムを塗る・個包装にする・セットにする等々、定型化した作業工程には、ひとり一人「強み」とする得意な力が活かれます。細分化した工程にはそれぞれに得意な利用者様がいることで、まるでオートメーション化された工房に早変わり。ひとり一つの作業でも最終的にセットクッキーが完成します。カラフルな一枚入りのセットには、その数以上に個性的な利用者様の自信と責任感が詰まっています。「私たちが作りました！食べてみて下さい！」と言わんばかりに「ほんの気持ち」以上のものが詰まっているかも知れません。誰が欠けても大変で、誰にとっても自信を持って関わられる「居場所」があります。「みんな違ってみんな



良い」の場所です。

「注文入りました！」の職員の声に俄然張り切る姿を見えていますと、色とりどりの個性が光る活動を今は最優先に続けたい、そんな思いの25年目の新生舎です。



保育士 阿部 ミサ子

この仕事に就き幼児を担当して13年目を迎えています。今、里で暮らすほとんどの中高校生に思いを馳せると、あの頃、泣き虫だった子どもたちが、今ではユニットの大人（職員）に悪態をついたり、思春期にて胸張っての反抗を試みたり姿がよく目に飛び込んできます。日夜一緒に過ごすことの多い大人（職員）たちは、銘々の子どもの言動に余裕を持ちつつも、時折の頑固な行動には頭を抱え、子どもに・自身に葛藤しながらの対応となっています。

ある意味健康で生意気盛りの彼らに、私からは「勉強頑張っているの？」「いつでもナオミ（幼児ユニット）に遊びにおいで……」等の声掛けをするのが精一杯であり、定番と

なっています。かつて彼らがナオミ（幼児ユニット）で過ごした頃は、常に近くで見守り、同じ目線に心がけ、幼い心にも是は是、非は非との気持ちでぶつかり、成長を感じる機会には多く涙しました。そんな日々を過ごした彼らが、高校生になった今、自ら幼児ユニットに遊びに来ることがあります。嬉しくもある中、自ずと銘々の近況を頭に描きながらの会話となります。大人へと成長しつつある自分を確認しているのか、幼児ユニットに温もりを求めているのか、当手を懐かしみ、安心感を求めているのか。いずれにせよナオミ（幼児ユニット）は子どもたちが卒業するまで、里の中での故郷であって欲しいと思います。



先日、野球が大好きな高校野球部の男子が怪我をし、手術を無事終え戻ってきた際、彼

の部屋を覗いてみました。ベッドに横たわっていた彼に「痛む？痛い？」「泣いてもいいよ！」と冗談交じりの声掛けをし、「泣かないし……」の真顔の返答を受けながら、彼の頭をくちやくちやに撫でると、彼から発せられた言葉は「うぜえ！」の言葉ではなく「ありがとう！」の言葉でした。

今は生意気盛りで色々なことに葛藤している彼・彼女らですが、幼児の頃のままの無垢な表情を時折見せてくれます。小さかった子どもたちは、身長もいつの間にか私を追い越し、年齢を重ねた私を誇る優しい気持ちも育っています。

このように嬉しい気持ちにさせてくれる子どもたちの育ちに感謝しつつ、私を含め大人（職員）たちの育てには、より自信を深めてもらいたいと思います。

現施設長は自身を「里の親父」とよく表現します。私は「里のばあば」く幸せをばら撒く花咲か婆さんになりたいと思います。幼い子どもたちの就寝時には、子守唄代わりに夏川りみさんの『童神（わらびがみ）』を唄い続けています。子と思う親の心情を、私も「育て」に生かすために「暑き夏の日は涼風を送り、寒き冬来ればこの胸に抱いて……」母の祈り込め永久の花を咲かそう……」

乳児院 望みの門 方舟乳児院

方舟乳児院に入職して



保育士 藤井 綾花

方舟乳児院で働き始めて気付けば半年も経っていました。学校を卒業し、初めての仕事で緊張と不安でいっぱいでしたが、元氣いっぱいの子ども達と、優しく丁寧に教えて下さる先輩方のおかげで頑張ってこれました。自分が保育園に通っていた時から保育士になりたいと持っていた夢。私が乳児院で働きたいと思ったきっかけが、この言葉に出会ったことです。「乳児の担当をしようと思う。必ずこの子達の記憶に私は存在しなくなる。この園に通っていた事など、記憶の隅にも残らない。でも、こ

こで愛された事、目と目を見つめ合って抱きしめられた事、記憶ではなく心の栄養となって、この子の生涯に残ると信じている。それが保育士のやりがいなのだ。」ふとした時にこの言葉を思い出すと、私は今、目の前にいる子ども達の心の栄



養となることができているのだろうか、自分の事を振り返ります。記憶はいつか薄れてしまっても、心に残るものは一生の物だと思っています。こうしてあげればよかったと後悔をしても、その瞬間には戻れません。子ども達の成長は日々目まぐるしく、昨日は出来なかった事が今日は出来るようになっていくこともあります。大人になったら出来て当たり前だと言われることも、子ども達にとったら当たり前前前前ではないことの方が多々と思います。何気ない日々の出来事でもたくさん褒めることを大切にしています。子ども達の甘える姿も、いたずらをする姿も、大人になったら見られない今の姿を全力で受け入れてあげたいと日々思います。とても貴重なそんな時期に関わる事の出来る保育

士はとても幸せな仕事だと思います。その分大切な時期だからこそ、その子どものこれからにとっても重要な存在だからこそ、責任がとてもあると感じています。毎日たくさんの子を子どもたちから学び気付かされる事があります。

これからも先輩方に教えていただきながら子どもの心の栄養となれる保育士を目指して頑張りたいです。

児童心理治療施設 望みの門木下記念学園

一緒に養育をする



心理相談員 荒井 千尋

私は令和4年度に木下記念学園に入職した。それまでの2年間は在宅勤務をしていたため、生身の人間と関わる機会が少なく、一人の時間、すなわち、他者を意識しない時間が多かった。

そんな生活から一転、極端に人との距離が近い職場に入ることになる。我々の仕事は、複数の人と一緒に養育をすることだ。家事を分担したり、子どもの将来と一緒に話し合ったり、物理的にも心理的にもスタッフ同士の距離は近くなる。

養育は、それまでの人生で培ってきた個人的な価値観が大きく反映される。そのことについて、佐京施設長は「洗面台で歯磨きをするように教わった人もいれば、どこで歯磨きをしようが何も言われなかった人もいる。育ってきた環境によって人それぞれ価値観は異なる。子どもと接する時に何が大切かをよく考えるように。」と話す。

自分の価値観が正しいかどうか常に迷うところであるが、他のスタッフと価値観が異なる場合、それをどう受け止めるかは、難しい問題である。何故、そこで怒るのか、何故、それを許容するのか、許容しないのか、など。自分の意に反する行動を目の前で見ると、腹立たしい気持ちになることもあれば、反対に自分が周囲の意に反することを、苛立たせることもある。

そして、結局は、我々スタッフが子どもに投げかける言動の全てが養育の一貫で、直に子どもに影響を与える。だから、気になるし、そのことでスタッフ同士の関係がこじれることもある。

しかし、これも、今日まで私がこの仕事にやりがいをもち続けてこられた理由の一つかもしれない。価値観が違う人たちとどうやって一緒に養育するか。どう共存していくのか。そのことを長い時間考えている。共存するためには、少なからず自分のこともわかってもらわなければならない。だから時としてスタッフとバトルになり神経をすり減らすこともある。

入職前は、対子どもとの対応に悩むことが一番多いと想定していたが、現実是对スタッフとの協働が一番高いハードルに感じることもある。日々悩みながらではあるが、異なる価値観をもつ人と一緒に養育することを楽しんでいる。



2024望みの門バザー報告

6月15日(土) 望みの門バザーを本館周辺を会場にして開催させて頂きました。当日は天候に恵まれて大勢の皆さまに足をお運び頂き心から感謝致します。今回は特に地元のボランティア団体の皆さまのステージで梅雨直前の暑い一日をさらに熱くして頂きました。これからも望みの門は地元の皆さまと共に歩んでまいりたいと願います。



社会福祉法人ミッドナイトミッションのぞみ会 令和 5 年度 決 算 報 告

資金収支計算書 (単位:千円)			事業活動計算書 (単位:千円)			貸借対照表 (単位:千円)		
科 目		金 額	科 目		金 額	科 目		金 額
事業活動による収支	事業活動収入	1,989,644	サービス活動増減	サービス活動収益	1,968,350	資 産 の 部		
	事業活動支出	1,762,449		サービス活動費用	1,854,070	流動資産	846,573	
	事業活動資金収支差額	227,194		サービス活動増減差額	114,280	固定資産	3,659,283	
						(基本財産)	2,531,093	
施設整備等による収支	施設整備等収入	2,731	サービス活動外増減	サービス活動外収益	21,293	(その他の固定資産)	1,128,190	
	施設整備等支出	93,212		サービス活動外費用	25,150	資産の部合計	4,505,857	
	福祉事業活動収支差額	△ 90,480		サービス活動外増減差額	△ 3,856	負 債 の 部		
その他の活動による収支	その他の活動収入	19,629	経 常 増 減 差 額		110,423	流動負債	197,023	
	その他の活動支出	91,282	特別増減	特別収益	15,642	固定負債	1,174,239	
	その他の活動資金収支差額	△ 71,653		特別費用	4,136	負債の部合計	1,371,262	
				特別増減差額	11,506	純 資 産 の 部		
当期資金収支差額		65,060	当期活動増減差額		121,929	基本金	716,871	
前期末支払資金残高		725,523	繰越活動増減差額	前期繰越活動増減差額	824,219	国庫補助金等特別積立金	720,516	
当期末支払資金残高		790,583		当期末繰越活動増減差額	946,149	その他の積立金	835,876	
				基本金取崩額	0	次期繰越活動増減差額	861,329	
				その他の積立金取崩額	5,530	(うち当期活動増減差額)	121,929	
				その他の積立金積立額	90,349	純 資 産 の 部 合 計	3,134,595	
				次期繰越活動増減差額	861,329	負債及び純資産の部合計	4,505,857	



※詳しくは独立行政法人福祉医療機構が運営する情報サイト「社会福祉法人の財務諸表等電子開示システム」にて公表しています。



※詳しくは独立行政法人福祉医療機構が運営する情報サイト「社会福祉法人の財務諸表等電子開示システム」にて公表しています。

編集後記

7月14日(日)いつものように利用者の皆さんと朝食を食べながら見るテレビは、いつものように大谷翔平選手のその週の活躍ぶりを報じていました。とその時、画面上部に「トランプ氏演説中に発砲音 警護責任者、前大統領は無事」とのテロップが飛び込んできました。その後トランプ陣営は政策論争ではなく「トランプは神が選んだ人物だ!」と訴え、トランプ氏自身もまるで生まれ変わったかのように分断から団結を発言し始めメディアが連日取り上げています。結果、共和党・民主党の支持率が拮抗しているスイング・ステートと呼ばれる州の有権者にトランプ陣営は主張の主語を自分ではなく「世間」「世論」など多人数であやふやなものに置き換えることで、発言の正当性を強調しつつ自身の責任は回避する「太宰メソッド」を用い支持が急速に広がっています。

分断や対立は「自分は正しい」という思い込みが起点となっています。私たちの罪は神さまによって赦されている。そこから湧き立つのが感謝と喜びです。それは同時に人を裁いたり、レッテルを貼ったりすることから解放され、人を理解しようとする人間になる事でもあります。もっと言えば人を赦す人間に生まれ変わることです。赦されている罪の大きさの自覚を常にアップデートしていくこと。それが多様性の時代を共に生きることの鍵になるでしょう。

(T2)